

卵巣明細胞腺癌に対する新規バイオマーカーの検索と 化学療法感受性に関する後方視的検討

九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学分野では、岩手医科大学などと共同で、病気に関係する遺伝子や薬の効き目に関係する遺伝子を見つけ出したり、遺伝子技術を取り入れた病気の検診のための技術開発を行っています。

この研究では、九州大学病院において手術を行った際に切除した残余試料(組織)を使用したいと思っています。本来、おひとりおひとりに、本研究に対しての協力をお願いし、承諾していただいた後に使用させていただかなければならないのですが、対象者の皆さんへのご案内が困難であるために、やむなくホームページに公開し、この研究での対象者の皆さんの試料(組織)・情報の利用の拒否の機会を提供することにしました。

この研究は厚生労働省、文部科学省、経済産業省が策定したヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針(以下「指針」と言います。)に則って実施されます。指針は、対象者の皆さんに危険や不利益が及ばないこと。対象者の皆さんの試料(組織)や情報を使うことが、医学の発展等、公衆衛生のために不可欠であること。他の方法では研究成果が期待できないこと等を条件に、このような方法での試料(組織)・情報の利用を認めております。

本研究は、これらの条件を満たしているかについて、九州大学医系地区部局ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会において審査され、九州大学病院長 久保千春、九州大学医学部附属病院 産科婦人科長 加藤聖子の許可を受けています。

対象者の皆さんには、後述する研究内容をご確認ください。さらに詳しい情報が必要な場合は下記連絡先までお気軽にご連絡ください。

研究内容を確認された上で、本研究への協力について拒否される場合についても、下記連絡先までご連絡ください。もちろん、拒否されたとしても皆さんが不利益を受けることは一切ありませんのでご安心ください。

対象者

九州大学病院産科婦人科において2006年4月1日から2011年3月31日までに卵巣明細胞腺癌の診断で卵巣癌根治術を受けられた方、約15名

・研究内容

当科で卵巣癌根治術が行われた切除標本を使って、遺伝子解析を行い、遺伝子の違いがどう関わっているのか、考察します。これにより、卵巣明細胞腺癌の疾患の原因を解明したいと考えています。

・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため、遺伝子解析を行う前に、九州大学病院メディカルインフォメーションセンターにて匿名化（個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにすること。研究室では個人情報を扱うことはなく、個人情報流出のリスクを回避できます。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

・研究期間

研究を行う期間は承認日より平成26年3月31日までです。

・医学上の貢献

本研究により試料・情報の提供者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、将来研究成果は卵巣明細胞腺癌の発症機序の解明及び新しい治療法の発見の一助になり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。

・研究機関

研究責任者：九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学分野・教授・加藤 聖子

研究分担者：九州大学病院産科婦人科・准教授・小林 裕明

九州大学病院産科婦人科・講師・園田 顕三

九州大学病院産科婦人科・助教・矢幡 秀昭

九州大学病院産科婦人科・助教・奥川 馨

九州大学病院産科婦人科・助教・兼城 英輔

九州大学病院産科婦人科・助教・河野 善明

連絡先：〒812-8582

福岡市東区馬出 3-1-1

Tel：092-642-5409(産婦人科外来) (平日8:30~17:00)

092-642-5403(産婦人科病棟) (夜間・休日)

担当：矢幡 秀昭